

統合失調症の初期症状

統合失調症は、主として思春期から青年期に、100人に1人の割合で発症する精神疾患です。

この時期は人生で最も多感で不安定な時期でもあり、病気の始まりに気付かないことがよくあります。

統合失調症には最近良い薬が開発され、早く治療を始めるほど治りやすくなっていますから、次に述べるような初期症状があれば、早期に対応することが大切です。

幻覚

「人が自分の悪口を言っている」「誰かが命令する」など、実際にはない声が聞こえる幻聴がよく見られます。幻聴があると、誰かと対話しているような独り言を言うことがあります。自分を変な臭いを出していると感じる幻臭が見られることもあります。

妄想

「誰かに見張られている」

「盗聴されている」「テレビから見られている」など、周りの人には理解できない言動は、妄想である可能性があります。

幻覚も妄想も、周囲の人がいくら気のせいだと言っても本人は納得しません。

認知障害と無気力・無関心

「急に勉強が手につかなくなった」「記憶力がガタッと落ちた」「仕事に集中できない」などで強い焦りが見られるときは、統合失調症の症状の一つである認知機能の障害が起きているかも知れません。

特に理由もないのに、無気力、引きこもり、入浴を嫌うなどの状態が続くこともあります。

早く精神科の専門医を受診しましょう

前に挙げた症状のいくつかが1カ月以上続けて見られた場合、統合失調症の可能性があります。統合失調

症であれば、放っておくと急に興奮したり、理解できない言動や行動が頻繁に見られるようになります。

多くの家族は、この段階になってようやく気付きます。しかし、この段階では、本人は病気を自覚できなくなっており、受診させるのに大変苦労することになります。

そんなとき「お前は精神がおかしい」と言ってもかえって反発を招くだけです。「苦しい状態を少しでも楽にしてもらうために相談してみよう」と話すと、意外に素直に応じてくれることも多いものです。

いずれにしても、何とかして早期に受診させることが重要です。



佐伯地区医師会
末田 格

なるほど!! 健康講座

問合せ 廿日市市保健センター ☎01610